

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限公司		
事業所名	グループホーム富田の里(黄桃)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	平成24年6月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者が自分らしく生活出来る事」「入居者を第一に」を施設理念・運営の基本としています。入居者が自宅のように生活できるよう職員も時間のある時には一緒にソファに座り一緒に笑い、その中で入居者様の「こんなことがしたいわ〜」等のニーズができればそのニーズにこたえる事ができるイベントを企画するなど入居者様が笑顔で過ごせることを常に意識しています。また、最近では毎月開催している合同イベントにご家族が参加して下さることも増えてきています。ご家族との繋がりが継続していくことで入居者様の生活もまた豊かになると考えています。また、地域の方々との交流の機会も少しずつ増えてきていますので、入居者・ご家族・地域の方々と共に楽しく生活ができるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200503-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市ベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年6月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はリビングで利用者と一緒に過ごす時間、あえて少し離れたスタッフルームから見守る時間とをうまく織り交ぜ、利用者とのつかず離れずの、ちょうど良い距離感を実現している。そのスタッフルームは両ユニットの真ん中にあり、ガラスが取り外された窓枠から見えるリビングは、とても近く、利用者にも親しみと安心感を与えている。理念の「自分らしく生活できる」とは何かを全職員で話し合い、何でも利用者の言う通りにすることは決して本人のためではなく、残存機能を維持し、長い目で見て生活が維持できるよう、どの部分にどんな支援が必要なのかを見極め、だれもがきちんと理解できる具体的な言葉で、介護計画に記している。ふだんの細かい観察があるからこそ、書ける内容である。介護記録や報告書のひな形も、ぱっと見てわかりやすいよう、常に見直しをかけている。また、同じ建物や隣接する同法人の別事業所と共に、委員会活動や行事が行えるのも強みである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、日々、再確認している	「利用者が自分らしく生活できること」「利用者を第一に」の理念は、単にすべての要望を聞き入れるという意味ではなく、どのようなケアが真に理念を実現するかを職員同士で話し合っている。管理者も常に理念を原点とした対応を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂ける夏祭りの開催、近所を散歩する際の挨拶等行っている。また、町内会主催のお花見への参加等、可能な限り地域の方々との触れ合いが持てるよう心がけている	創業者の地元なので、地域とのつながりは元々強い。利用者と共に地域行事へ参加したり、事業所の行事に地域の人々を招待したり、ノロウイルス対策や老老介護問題の資料を作って説明したりと、住民とできる限り交流し、意見を聞いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議ではGHの現状報告だけではなく様々なご要望・ご質問にも応じられるよう運営しており、その都度必要ににんじ対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行いGHでの活動内容の報告を行っています。また、役所・地域の方々に参加して頂き、ご指導頂いています。また、消防の方にも参加して頂き緊急避難についてのご指導を頂きました。	定期的な会議の実施で、地元との距離が近づいた。花見に呼んでもらえたり、神輿の太鼓を利用者に叩かせてもらったりと、積極的に誘いがかるようになった。昨年の課題であった議事録の作成も実現し、配布に関しても準備中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、老人クラブ・民生委員・地域包括支援センター・介護保険課の方々に参加頂いています。また、地域の方々に参加して頂けるお祭り等を通して市町村・地域の方々との連携を図っています。	運営推進会議には、毎回、市の介護保険課、地域包括支援センターの両方の職員が参加し、事業所が行政と地域間での情報交流の場の機能を果たすようになった。行政へ気軽に質問もでき、良い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については重要事項説明書に明記してあることを全職員に伝えており、重要事項説明書もいつでも閲覧できる場所においている。また朝礼の中でもGHにおける身体拘束についての話を定期的に行っている。	身体拘束は見受けられない。入口は電子ロックだが、利用者の要望があれば、すぐに開け、職員が散歩やドライブに付き添う。利用者とも目線を合わせて、じっくり話を聞くことで、その行動の意味を探り、気持ちに応えられる対処を見つけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも閲覧できる場所においている。また、職員間で話し合いの場を設けている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	アクションケアプラン委員会がありこの中で介護保険制度の仕組みやケアプランについての勉強の機会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはひとつ、ひとつの項目につき十分な説明を行い、納得頂いた上で署名して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を述べやすいように、来所の機会(行事・イベント等)を定期的に設けその場で意見や要望を発言しやすい状況を提供している。また、運営推進会議でだされた内容もGH運営に反映できるよう努めている	家族が職員に伝えた意見は、管理者がきちんと家族にその対処を報告している。例えば利用者の持ち物の紛失には、リストを作成して防止するといった解決策を実施している。大きくて目立つ意見箱など、意見を受け取る姿勢をアピールしている。	職員の名前がわからないので、家族はどの職員に話したかを明らかにできない。名札の着用など、きちんと名前がわかることで、家族が今以上に安心して話せるような体制整備を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH運営会議を管理者、主任は参加し、職員の意見や要望、質問に反映させている。また、会議録を作成し職員全体に報告が出来る体制を整えている。	管理者は会議や日常を通じて、職員の意見を常に聞いている。職員から出た仮想パーティの企画や排泄に関する提案を積極的に受け入れ、実現につなげている。また意見・提案は可否や経緯も含め、その結果を文書にし、全職員に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度・個人評価シートが賞与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H23年8月より外部研修(コーチング・接遇)を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に参加することにより、外部との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて御本人から生活歴を伺い入所前から安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、ご家族本人から時間をかけてお話することで、生活歴を確認するだけでなく、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の要望を確認した後にケアプランの作成を行い契約時にケアプランの説明を家族に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に職員が日常生活を過ごすという考えで日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報を2カ月に1度手紙・写真でお伝えしています。また、行事やイベントには参加を促す連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を希望される方に対し、交流を図れる場を提供している。	家族、親族の来訪が多く、遠方からもしばしばある。面会時は職員や他の利用者に気を遣わず、ゆっくり話せるように配慮している。また、家族の協力を仰いで小遣いを預かり、馴染みの喫茶店で過ごしたり、嗜好品を購入できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や人間関係を把握し、ひとりひとりがその人らしく生活できるよう気を配っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の要望があった場合には面会を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や普段の会話の中から本人の望まれる事を知り、ドライブ、散歩、クラフト、行事等行っている。	半数以上の利用者が意思を伝えられ、ドライブや手芸、貼り絵など、その時々希望に応じて実施している。また、意向を伝えにくい人には普段の様子や話から職員が慮る。例えば化粧をしたい人には仮想パーティで実現し、喜びを引き出した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談にて、本人、ご家族、担当ケアマネジャーから情報を入手、また、入所後の本人との会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、入居者と接する中でその人その人の生活パターンを職員が理解し、申し送りや記録を利用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきがでた際には介護主任・計画作成担当者に報告、モニタリングを実施し、その時本人にとって必要な介護計画を作成し本人の満足度を高めている。	利用者のケアについて、職員間ではよく話し合わせ、介護計画も具体的で細かく作成されている。しかし、家族を交えた席では、家族の意見がほとんどなく、事業所側の意向を伝えて同意を得る形で、話し合いにまで至らないことが多い。	家族とのやりとりを記録に残して、話し合いに役立てたり、本人や家族の意見を聞き出しやすい質問方法を研究して、介護計画に反映できるような仕組みづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を活用し日々の体調や生活の変化に気を配りながらケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族が望まれている事に気を配り、職員間で話し合った後、ニーズに添えるよう援助を行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の公園を利用した散歩やボランティア活動による書道や音楽療法に参加し地域の方々との交流を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・ご家族・御本人としっかり話し合い御本人のご要望に沿った対応を行っている。	原則的に利用者は従来のかかりつけ医を継続し、職員はできる限り受診に付き添っている。事業所には看護師が常駐し、ちょっとしたけがや風邪など、利用者と医療機関とのパイプ役として早急かつ適切な対応が取れるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日バイタル確認を行い看護職は確認しています。また、入居者が様子がおかしいと感じた際には、看護職に報告する等連携をとりながらケアに取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には面会に行き、状況確認を担当看護師やご家族から行い、退院にあたって必要な準備をカンファレンスを通じ行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調の管理を行う。常に家族・主治医・職員が情報を共有することになっている。	看取り指針を文書化して家族に説明し、その同意書を受け取っている。現在、看取り介護に入った利用者があり、担当者会議などに家族も参加し、今後についての確認をとっている。協力医との連携や緊急連絡網の整備など、看取り体制が築けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応について研修をおこなっている。又、スタッフルームにマニュアルを常備し、いつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施、消防署の方にも協力頂き消化器の使い方、当施設における安全な避難経路についての説明、シューターの使い方の実践等行っている。	昨年の課題であった消火器の場所、避難経路や通報方法など、防災に必要な情報の全職員への熟知が、今年ではできていた。実践的な訓練を重ね、夜間想定訓練では避難に9分かかることがわかり、どのように時間短縮するかを、今後の課題として捉えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性を尊重し、その人その人に合わせた接し方を心がけ、プライバシーに配慮した対応を行っている。	利用者各人が、どのような言葉かけや対応を不快に思うかを観察し、一人ひとりに合った方法で接している。「自分でできた」という自尊心を維持できるよう、最小限の介護を意識している。トイレ誘導であからさまな声かけが、たまに見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のニーズを尊重し、自己決定ができるように普段からコミュニケーションを図りご利用者が何を求め、望んでいるかをお聞きしやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受容・傾聴の姿勢で入居者に対応し、本人の意向に沿った日常を提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は本人に選んで頂いている。また自己決定が難しいかたにも職員の声掛けにより僅かでも本人の意思が反映されるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前訪問の時や日々の生活の中での傾聴を通し、食事の好みについて把握と食事もご利用者と一緒に準備・方付けがしやすいような環境作りを努めている。	品数が多くバランスのとれた献立や、陶磁器の食器に彩り良く盛った家庭的な食事は、利用者の楽しみであり、家族からも高く評価されている。月2回の「調理の日」は利用者と一緒に準備から片付けまで行い、「食」に対する関心を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については1日1000cc以上摂取できるよう声掛けを行っており水分摂取量も記録している。食べる量や栄養バランスについては管理栄養士の提供してくださるメニューにて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、本人の残存能力を少しでも活用して頂けるよう声掛け、介助を行っている。また、訪問歯科の先生には定期的に往診にきて頂き食事形態等の指導を頂いている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら職員の声掛け誘導を行っている。夜間はオシメ使用の入居者も日中はトイレにて排泄を行い自立支援を行っている。	トイレでの排泄に力を入れている。各人に見合った、慌てない、慌てさせない介助・見守りを心がけ、昼間は全員がおむつなしとなった。紙パンツから布パンツへ戻った利用者もいる。身体の硬縮により移動困難な利用者には、昼間は職員2人で介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の作成した献立メニューにより便秘に考慮した食物が摂取出来ている。また、毎日の体操、水分摂取等により自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行っている。入居者の希望により決められて入浴日以外の入浴にも対応している	週2～3回、午後からの入浴が基本であるが、利用者の気分を鑑みて柔軟に対応している。入浴中は話をして和んでもらうと同時に、体調や湯加減に注意を払い、常に確認している。また、タオルで細かに体を隠すなど、羞恥心への配慮を徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分休んで頂けるよう、本人の希望を考慮しつつ日中に活動して頂けるよう散歩・体操・レク等の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、薬局で一緒に渡される薬の説明書を職員が確認し把握している。また、服薬後の入居者の様子も記録に残し主治医、家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の自由な時間を尊重しつつ、家事の手伝いやクラフト散歩等、入居者のその日の状態を考慮しながら職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には職員から外出の声掛けを行っている。その際入居者から具体的な外出の希望がでた際には入居者の希望に沿った外出ができるよう支援している。	介護度が上がり、遠出の回数は減ったが、ドライブ途中の店で飲み物を買ったり、法人所有の近くの畑まで散歩したり、ベランダ菜園を楽しんでもらうなど、外の空気に触れる機会をできる限り作っている。ふだんの会話で行きたい所が出れば、外出計画に盛り込んでいる。	

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブの際には個人のお金を持参し、途中食べ物や飲み物を購入したり、缶コーヒーの好きな方には散歩の後、畑付近の休憩所で職員と一緒に購入するなど、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話を使って知人・家族に連絡を取りたいとの申し出があった場合には施設の電話を使って頂きかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑のカーテンをしたり窓を開放し風通しを良くするなど居心地の良い空間作りを目指します。天気の良い日にはテラスに椅子を運びお茶を飲んだり、アイスクリームを食べながら周りの景色を眺め四季を感じて頂ける工夫をしています。	開放的な雰囲気味わえるよう、見晴らしと風通りの良いベランダを活用している。リビングの壁には利用者と一緒に月ごとに制作する貼り絵で季節感を出し、すっきりとした中にも温かみがある。清掃は夜間を中心に午前や食事直後にも適宜行い、清潔さを保っている。	換気扇や洗濯機の周り、風呂の扉のレールなど、普段の清掃から抜け落ちている水回り部分が汚れていた。チェックリストの活用などで、定期的に確実に清掃し、リビング同様、清潔な環境を維持できるよう期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る位置やダイニングの席は入居者の状態に合わせてその日が楽しめるように気を配っている。座位は保てないが皆の輪で生活したい方にはソファを活用し、日向ぼっこが好きな入居者は一人で陽にあたる空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の生活スタイルにあった道具を持ちこんで頂き、本人にとって違和感なく生活できるよう配慮している。	居室ごとに異なる内装は、利用者の自室の見極めに役立っている。ベッドにするか、畳に布団を敷くかも自由に選択できる。利用者の書道や絵の作品を本人が好む位置に掲示するのを職員が手伝い、安心できる居場所づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中でそれぞれのADLを考慮し洗濯物を干しにしやすいようにスロープを設置、掃除がいつでも出来るようにホウキとチリトリをいつでも利用できるようにしている。また洗い物をして頂きやすいようにキッチンを開放している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限公司		
事業所名	グループホーム富田の里(白桃)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	平成24年6月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=3390200503-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年6月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、日々、再確認している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂ける夏祭りの開催、近所を散歩する際の挨拶等行っている。また、町内会主催のお花見への参加等、可能な限り地域の方々との触れ合いが持てるよう心がけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議ではGHの現状報告だけではなく様々なご要望・ご質問にも応じられるよう運営しており、その都度必要ににんじ対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行いGHでの活動内容の報告を行っています。また、役所・地域の方々に参加して頂き、ご指導頂いています。また、消防の方にも参加して頂き緊急避難についてのご指導を頂きました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、老人クラブ・民生委員・地域包括支援センター・介護保険課の方々に参加頂いています。また、地域の方々に参加して頂けるお祭り等を通して市町村・地域の方々との連携を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については重要事項説明書に明記してあることを全職員に伝えており、重要事項説明書もいつでも閲覧できる場所においている。また毎朝行う朝礼の中でもGHIにおける身体拘束についての話を定期的に行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも閲覧できる場所においている。また、職員間で話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	アクションケアプラン委員会がありこの中で介護保険制度の仕組みやケアプランについての勉強の機会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはひとつ、ひとつの項目につき十分な説明を行い、納得頂いた上で署名して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を述べやすいように、来所の機会(行事・イベント等)を定期的に設けその場で意見や要望を発言しやすい状況を提供している。また、運営推進会議でだされた内容もGH運営に反映できるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH運営会議を管理者、主任は参加し、職員の意見や要望、質問に反映させている。また、会議録を作成し職員全体に報告が出来る体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度・個人評価シートが賞与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H23年8月より外部研修(コーチング・接遇)を行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に参加することにより、外部との交流や情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて御本人から生活歴を伺い入所前から安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、ご家族本人から時間をかけてお話することで、生活歴を確認するだけでなく、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の要望を確認した後にケアプランの作成を行い契約時にケアプランの説明を家族に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸や農作業の得意な入居者様より土いじりのご指導を頂いたりまた、一緒に家事をこなしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との繋がりを深める為に毎月ご家族に参加頂けるイベントを実施しています。またご家族への情報提供の機会を増やすことにより来所しやすい環境を提供している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はどなたでも可能です。また、入居者のニーズによっては職員を1名増員し個別の対応も行っています。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごしている入居者様には他入居者が自然に声をかけてくださり、また職員もフロア全体を常に気にし入居者が楽しく生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の要望があった場合には面会を行う。また、ご家族のご要望には出来る限り対応出来るように努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や普段の会話の中から本人の望まれる事を知り、ドライブ、散歩、クラフト、行事等行っている。また、居室で休まれる事を希望される入居者様にも身体状況を考慮し、適切な時間休んで頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分の居室や普段使うお箸やお茶碗等は馴染みの物を使用して頂いています。また、食事時間や就寝時間等入居者の状況により柔軟に対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の状況(食事量・水分量)バイタル確認・表情等に気を配って接しています。また、介助をしすぎないように介助するさいには残存機能を活用して頂けるような声掛けに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきがでた際には介護主任・計画作成担当者に報告、モニタリングを実施し、その時本人にとって必要な介護計画を作成し本人の満足度を高めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートの活用や申し送りを活用し情報の共有を図っている。また、入居者のADL等に変化が感じられた場合には職員間で話し合いを行い入居者様の状況に合わせた援助を行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に合わせてその日に何をするかを考えています。外出やドライブ・土いじり・フロアでゆっくりする等柔軟な援助が行えるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の公園を利用した散歩やボランティア活動による書道や音楽療法に参加し地域の方々との交流を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時への対応については入所前に御本人・ご家族・主治医と話し合い御本人の要望に沿った対応をしていく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日バイタル確認を行い看護職は確認しています。また、入居者が様子がおかしいと感じた際には、看護職に報告する等連携をとりながらケアに取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には面会に行き、状況確認を担当看護師やご家族から行い、退院にあたって必要な準備をカンファレンスを通じ行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調の管理を行う。常に家族・主治医・職員が情報を共有することになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応について研修をおこなっている。又、スタッフルームにマニュアルを常備し、いつでも閲覧できるようにしている。また、GHの部署会議で緊急時の対応についての勉強もしている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施、消防署の方にも協力頂き消火器の使い方、当施設における安全な避難経路についての説明、シューターの使い方の実践等行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が質の高い生活が送れるように一人一人の性格を意識しながら声掛けを行っている。家庭的な雰囲気の中でも入居者様の尊厳を損ねない言動を意識し生活しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりした雰囲気の中で入居者様が自分の意見を言いやすい環境を作っている。また、職員も家族の一員として生活する中で職員に何でも話しが出来る人間関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念の「入居者様を第一に」を職員全員が意識し、状況に応じては入浴の時間・食事の時間等決まった時間にとらわれず入居者様が自分らしく生活できることを意識し援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は本人に選んで頂いている。また自己決定が難しいかたにも職員の声掛けにより僅かでも本人の意思が反映されるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員全員で食事を召し上がって頂くことにより家庭的な雰囲気です食事を召し上がっていただいている。また、安全に召し上がって頂く為に介助の必要な入居者様に対しては咀嚼・嚥下を確認しながら確実に召し上がって頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については1日1000cc以上摂取できるよう声掛けを行っており水分摂取量も記録している。食べる量や栄養バランスについては管理栄養士の提供して下さるメニューにて対応している。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、本人の残存能力を少しでも活用して頂けるよう声掛け、介助を行っている。また、訪問歯科の先生には定期的に往診にきて頂き食事形態等の指導を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオシメ使用の入居者も日中はトイレにて排泄を行っている。尿意・便意がない入居者様にも定期的な声掛け及びトイレ誘導を行うことにより質の高い生活ができるよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の作成した献立メニューにより便秘に考慮した食物が摂取出来ている。また、毎日の体操、水分摂取等により自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行っている。また入居者様の希望があれば入浴時間や入浴日以外にも入浴が出来るように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活の中で居室で休まれる事を希望される方には入居者様の状況に合わせて休んで頂いています。また、日中の活動量を確保することにより夜間帯にゆっくり休めるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、薬局で一緒に渡される薬の説明書を職員が確認し把握している。また、服薬後の入居者の様子も記録に残し主治医、家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の自由な時間を尊重しつつ、家事の手伝いやクラフト散歩等、入居者のその日の状態を考慮しながら職員と一緒にやっている。入居者様のADLを考慮し一人一人に合った楽しみが提供できるよう努めている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には職員から外出の声掛けを行っている。その際入居者から具体的な外出の希望がでた際には入居者の希望に沿った外出ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブの際には個人のお金を持参し、途中食べ物や飲み物を購入したり、缶コーヒーの好きな方には散歩の後、畑付近の休憩所で職員と一緒に購入するなど、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話を使って知人・家族に連絡を取りたいとの申し出があった場合には施設の電話を使って頂きかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月カレンダーを入居者、職員が一緒になって作成し展示しています。天候の良い日にはテラスに椅子を運びお茶を飲んだり、アイスクリームを食べたりします。また、ベランダにプランターを設置し緑を感じて頂ける工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る位置やダイニングの席は入居者の状態に合わせてその日が楽しめるように気を配っている。座位は保てないが皆の輪で生活したい方にはソファを活用し、日向ぼっこが好きな入居者は一人で陽にあたる空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の生活スタイルにあった道具を持ちこんで頂き、本人にとって違和感なく生活できるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段入居者様が使用する場所付近には物を置かない。整頓に努める。移動の際つかまり立ちができるような環境作りを行う		